

平成30年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第3回

平成30年7月10日（火） 午後7時00分～ 総合学習センター
『教育研究論文の書き方について』 提案者：算数・数学科指導員 加藤 良彦 先生
秀野 亜友 先生

1 なぜ、論文を書くのか～論文を書くことの意義～

- (1) 授業が変わる
- (2) 書くことで見えてくる自分，そして変わっていく自分
- (3) 論文のための実践ではなく，子どものための実践

優れた論文＝優れた実践
優れた実践≠優れた論文

2 実践をまとめるにあたって

- (1) 論文は難しいという先入観を払拭する。まず一步を踏み出さそう。
 - ・先人の記録に学ぶ。（読む，まねする）
 - ・とにかく書いてみる。
 - ・記録（資料）があれば，なんとかなりそうだなって気になる。
※デジタルカメラ，デジタルビデオカメラ，ボイスレコーダー ⇒ 三種の神器
 - ・授業がうまくいかなかった ⇒ それも自分の貴重な資料となる。

(2) 書き方

・一般的な形式

序論（2～3P） 本論（7～9P） 結論（2～3P）

| | | |
|-------------|------------------------------------|------|
| 研究主題 | —副主題— | |
| | (プロット) | |
| ・序論（5～10%） | 1 はじめに (主題設定の理由，研究の動機，めざす子供像) | 理論部分 |
| ・本論（80～85%） | 2 研究目標，方法，計画 (目標，仮説，方法，計画，単元構想) | |
| | 3 研究内容 (実践と考察) | 実践部分 |
| ・結論（10～15%） | 4 まとめ (結果) | |
| | 5 今後の課題 (結論，課題) | |

「形式はこうでなくてはならない」といったものがあるわけではない。自分の考えを相手にいかに伝えるか。そして，子供の変容がどうしたら読み手に伝わるのかが重要である。そのために最もよい形式を考えていくことが大切。

●理論部分について

・論文は劇的ビフォーアフター

- Q1 この家の問題は？ ⇒ A. 真ん中に段差がある。
Q2 どんなふうにしたいか ⇒ A. 段差をなくす
Q3 そのために何をするか ⇒ A. 高い方を下げる，低い方を上げる。

★めざす姿にするために，仮説，手立てを考えていく。

・仮説について



●実践部分について

- ①文章は事実と考察
- ②客観的，具体的
- ③資料活用，引用



考察は手立ての有効性，仮説の正しさについて書く！



子どもの姿に対する考察も必要

- △：文字ばかりだと，主観的になる。
○：資歴記録などがあると，客観的
◎：+α 変容を示す（作品，学習日記）

★言える，わかる，読み取れる，うかがえる，ではないだろうか できめるとよい。

3 良い教育論文

- ・教師の熱意 ・子どもを大切に作る姿勢
- ・一貫した論文か ・価値ある論文か
- ・体裁が整っているか ・明確な表現，表記か

4 論文を書くにあたって，計画を立てて行う

①2学期に実践する場合

夏休みに授業計画を立てる ⇒ 授業記録や資料ををこまめにそろえる

②1学期に実践できている場合

資料が集まっているか確認する ⇒ 夏休み中に書いておく

様々な先生に見ていただき，ご指導していただくとよい！